

保護者様

令和4年11月8日

京都市立大原野小学校
校長 市川 幸司

令和4年度

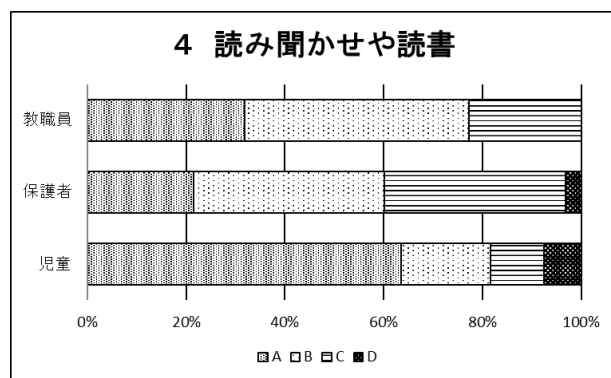
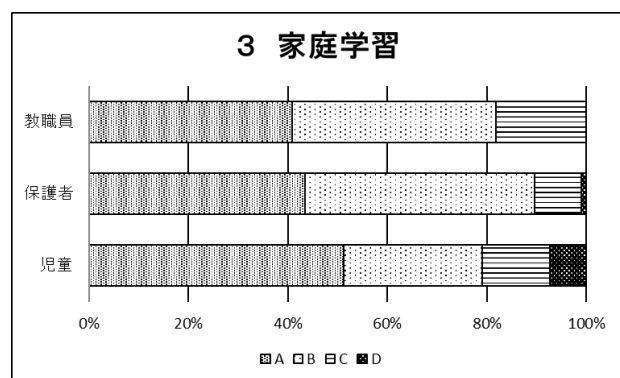
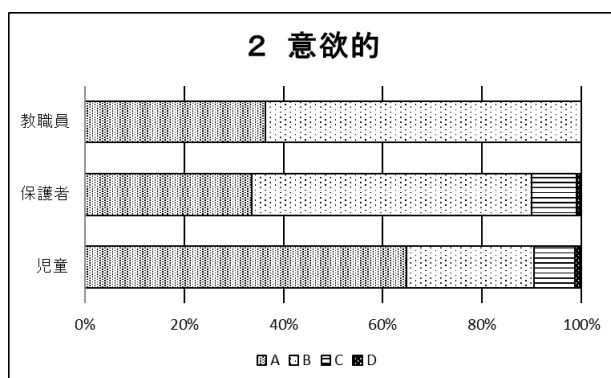
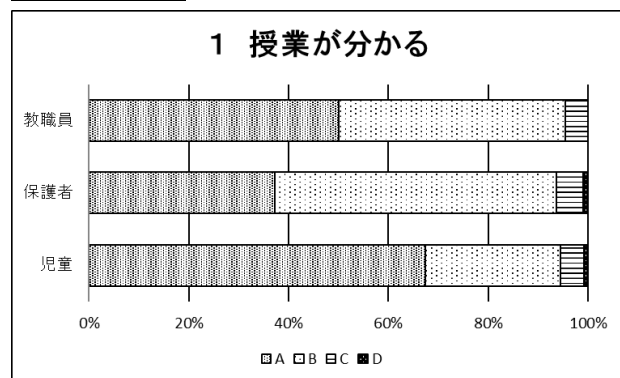
京都市立大原野小学校 第一回学校アンケート結果

第一回学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果を分析・検討し、学校運営協議会においてご意見をいただきました。その結果をお知らせします。さらによりよい大原野の教育を進めていきたいと考えています。今後とも、本校教育にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

本校では、学校教育目標を「自ら学び未来を創造する子の育成～夢や希望をもって努力し自信をもって学び続ける児童～」とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を柱に全ての教育活動を行っています。この3つの柱の観点から、児童12項目、保護者13項目、教職員15項目のアンケートのうち、いくつかを取り上げて考察しました。

A…そう思う B…だいたいそう思う C…あまりそう思わない D…そう思わない

1. 確かな学力

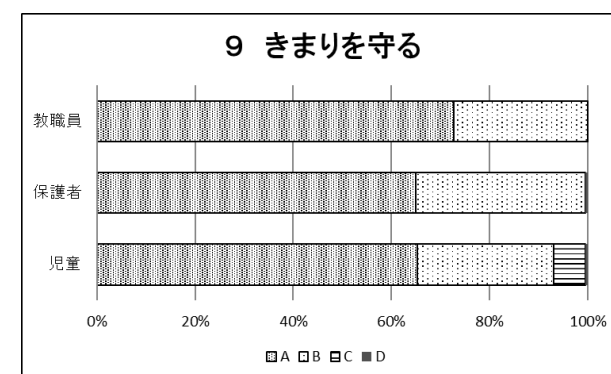
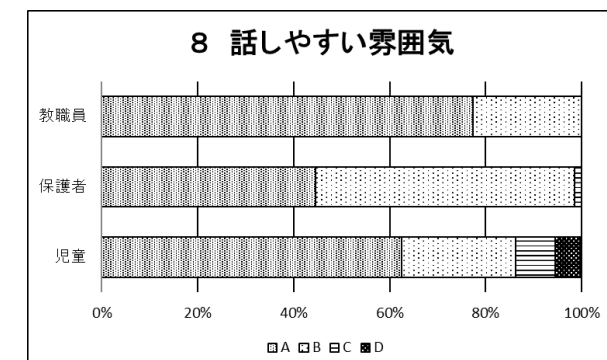
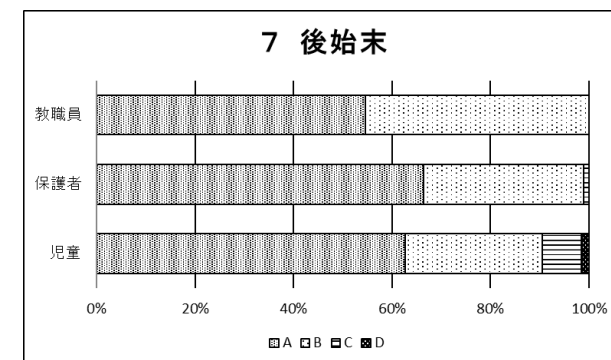
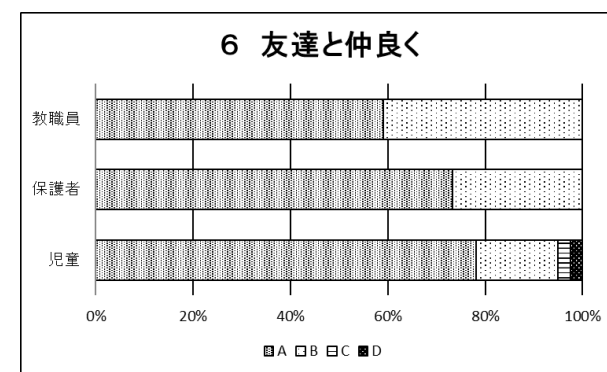
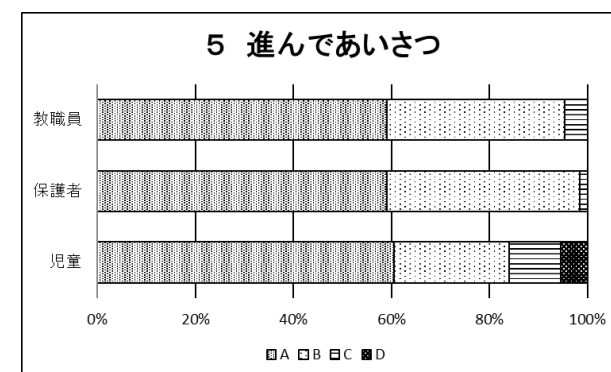


①の項目「授業の分かりやすさ」については、児童・保護者とも94%がAとBを合わせたプラス評価をしています。これは、毎時間の学習課題を明確にすることで、児童は学習の見通しをもつことができ、「授業のわかりやすさ」につながったと考えます。また、具体物や半具体物を使った操作活動を多く取り入れたり、ペア学習やグループ活動を取り入れたりなど工夫した成果だと考えます。さらに、一人一台の GIGA 端末を活用し、デジタルドリル『ミライシード』で漢字や計算などの定着を図ったり、『ロイロノート』で自身の思考をまとめ、互いの意見を交流し合ったりしました。しかし、学年に限らず、C と D を合わせたマイナス評価をし

ている児童もいます。全ての児童が「知りたい」「やってみたい」「できるようになりたい」と思う授業の実践をしていくことが必要ととらえ、児童がよくわかったと実感できるよう、複数で学習指導に当たるなど、きめ細かな指導の在り方も考えていきたいと思っています。

②の項目「授業や学習にがんばって取り組んでいるか」については91%の児童がAとBを合わせたプラス評価をしています。しかし、低学年と高学年のAだけを比べてみると、低学年では73%、高学年では57%と、高学年が低くなる傾向にあります。指導者は、自信をもって「がんばっている」と回答できない原因を探ると同時に、授業の展開などを工夫し、一人一人が主体的に学習に取り組むようにしていきたいと思します。そのためにも、学習への意欲付けとして、意欲的な学習態度やできたことを大いに評価すること、学習の中で達成感を味わえる場面を多くもてるようにすることなどが大切と考え、低学年から高学年へとつながるように取り組んでいきたいと思っています。

2. 豊かな心



⑤の項目「進んであいさつ」については、98%の児童がAとBを合わせたプラス評価をしています。しかし、普段の様子に目を向けると、進んで気持ちのよいあいさつができていない児童もいます。今後も「目指すあいさつ」の具体例を示したり、自ら進んであいさつができる取組を続けたりしていきたいと思します。

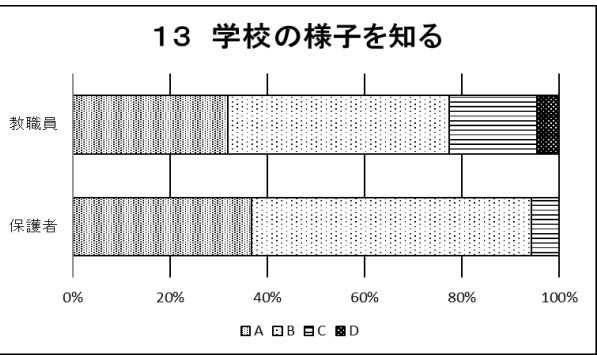
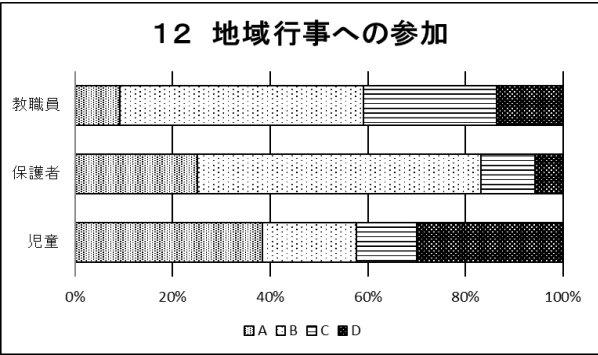
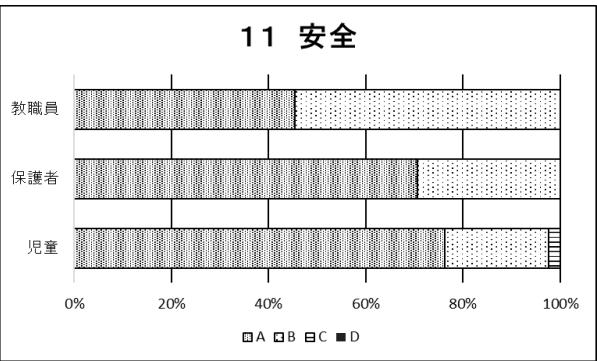
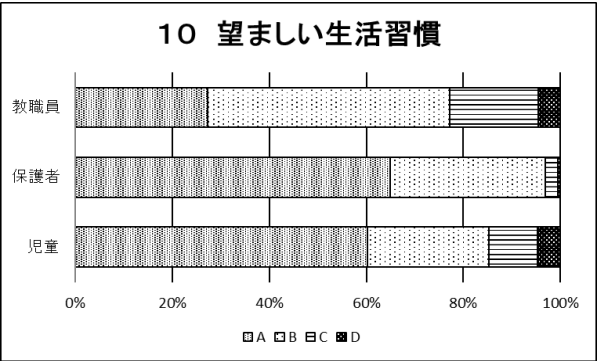
⑥の項目「友達を大切にする」については、児童は94%、保護者は100%がAとBを合わせたプラス評価をしています。学校では、毎月「つながりの日」を設定し、その月の人権テーマに合わせ、学年に応じた内容を学習します。学習のまとめとして書いた「ふりかえりカード」は中校舎1階の「つながりコーナー」に

掲示し交流しています。また、友達の良いところを終わりの会で伝え合ったり、見つけた良さを「きらきらカード」に書いたりなど、友達を大切にするための取組を積み重ねています。これからも様々な角度から人権意識を高める活動を取り入れていきたいと考えています。

⑧の項目「話しやすい雰囲気」については、児童は86%、保護者は98%が A と B を合わせたプラス評価をしています。しかし、14%の児童が「困った事を相談する」事について C、D と回答しています。学校では、困った時に相談できることが大切だと考えています。そこで、日記帳(あのねちょう)や「きよならノート」などを利用し、児童の日常の様子や一人一人の思いを知るように努めています。他にも、「いじめアンケート」や「学校生活についてのアンケート」などをもとに、「先生と話そう月間」として、児童一人一人と面談しています。そして何よりも、日常から児童が安心して相談できる雰囲気をつくっていくことが一番大切です。教職員は「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」をこれからも心がけます。

⑨の項目「きまりを守っている」では、93%の児童が A と B を合わせたプラス評価をしています。しかし、「そう思う」と自信をもって回答したのは、低学年が76%に対して、高学年は55%と、大きな開きがあることが分かりました。これは、決して高学年児童の規範意識が低いのではなく、成長するにしたがって、自身を客観的に厳しく見るようになり、本当はきまりをしっかり守っていても、自分の行動に自信がもてないでいると考えられます。そのような児童がいることを認識した上で、きまりを守ろうとする児童の意識や行動を、教職員や周りの大人が声をかけたり、ほめたりして、児童の規範意識をさらに高めていきたいと考えています。学校では、きまりは一人一人が学校生活を気持ちよく過ごすために大切なことであるということを指導していくと同時に、児童が進んできまりを守っていこう、と思えるような取組を行っています。

3. 健やかな体



⑩の項目「望ましい生活習慣」については保護者から96%のプラス評価がありました。しかし15%の児童が C と D を合わせたマイナス評価をしていることも分かりました。学校としても、再度、規則正しい生活習慣の大切さを指導していく必要があると考えています。

⑪の項目「安全に気をつける」でも保護者、児童ともに「そう思う」「大体そう思う」と高いプラス評価の回答がありました。学校でも、毎月の「安全の日」に安全ノートを活用して、児童が校内・校外で安全に過ごすための学習をしています。特に、コロナ禍で様々な取組が中止になる中、安全面に関しては中止にすること

なく、感染防止対策をとりながら、1年生の交通安全教室、2、3年生の自転車教室、4年生の免許証交付自転車教室などを実施しました。また、機会があるごとに、登下校や校内での過ごし方、長期休業など休み中の過ごし方などについて指導しています。様々な場面・場所で危険を予測し、適切に行動できる力を家庭、地域と連携しながらつけていきたいと思っています。

4. その他(学校運営協議会でいただいたご意見を載せています)

- ・保護者が進んで見守り隊の活動に取り組んでくださるのがとてもありがたい。1年生を迎える会や6年生を送る会などで、見守り隊と交流する機会があればよい。
- ・放課後まなび教室では、異学年同士の交流が自然とできあがっている。上の学年が下の学年に優しく接している姿をよく見かける。
- ・例年、運動会では、地域の独居老人が観覧できる「敬老席」が設けられていた。独居老人への招待状はいつも2年生が作ってくれていた。とても暖かみのある手紙で、大変喜ばれていた。コロナ禍が収まれば、復活を期待したい。
- ・PTAでは、「できる人ができる時にできることを」というコンセプトで、学校行事などボランティア制にしてみた。すると、以前より多くの方が参加してくれた。来年度からに生かしていきたいと考えている。
- ・おやじの会では、何か学校・子どものためにできないか、という思いから、昨年度は遊具のペンキ塗り、今年度は校舎廊下のセンターラインを塗り直した。例年なら夏祭りともちつき大会をしていたが、事業の見直しも検討している。
- ・アンケートの結果については、母体数が大きく大きく関わってくる。大原野は母体数が少ないから、1～2人で結果が変わる。
- ・学校は、アンケートの数字に一喜一憂することなく、子どもの学びのために、取り組んでいただきたい。
- ・まだコロナ禍は続いているが、できるだけ早く日常生活を戻していきたい。

学校が目指している児童の成長には、家庭・地域との連携が欠かせません。学校での取組を各種たよりやホームページなどを通して発信していくと同時に、児童・保護者・地域からの様々な声に耳を傾けられているかなどについて、教職員は今後も自らに問い直す機会をもちながら教育活動・学校運営を進めていきます。